

ヒヤリ・ハット事例

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項
1	高速道路で	収集運搬車両を運転中	後部タイヤが破損し、一部がテールランプに当たって壊れた。	タイヤの溝は日常で確認しているが、使用頻度の低い車両だった為、長い間タイヤ交換をしていなかった。長期間使用していない車両は、乗車前にタイヤを交換する。
2	自社工場内で (八王子市)	フォークリフトで作業中	パレットに積んである荷物が崩れ、作業員に当たりそうになった。	フォークリフトで作業する時は、確実に荷崩れしないよう事前に確認し、前後左右の安全確認をして作業に従事する。
3	一般道路で (川崎市)	雨の中トラックで走行中	とても強く降っていたので視界が悪く、サイドミラーを見たら油膜が付いていて、よく見えなかった。	雨が降るかどうかは関係なく、洗車時には油膜取りを行い、ガラコ等を塗る。
4	自社工場内で	最終退出の時	設備電源やドアの閉め忘れ等を確認して消灯したら、足元が暗く見えづらかった為、近くに合った秤につまずき転倒しそうになった。	電源の位置や秤の置き場等を変える。
5	焼却炉内で	灰出し作業中	15分ほど経過したら、頭がポーっとしてきてヒヤリとした。	体調の管理に気を付け、一人作業を禁止する。
6	プラントで	積み込み作業終了後に、荷物に散水しようとした時	ホースを持ってハシゴを上がったら、足を滑らせて手が塞がっていた為、転落しそうになった。	荷台の上から散水できるようホースレスにする。
7	構内大型プラント内にて	設備の部品交換中	取外した部品が重量物であったにもかかわらず一人で運ぼうとしたら、抑えていた手から部品が離れ、足の上に落下しそうになった。	重量物を運ぶ場合には、二人以上で作業を行い、運搬に関しては台車やリフトなどを利用する。
8	自社工場内で	発泡スチロール溶融作業における投入作業中	ベルトコンベアーが不調で頻りに停止してしまう為、様子を見ようとベルトの裏側に指を入れたところ、急に動きだしベルトとローラーの間に手袋の指先部分が挟まれた。	この時は直ぐに抜けたので大事に至らなかったが、同様の処置を行う場合には、完全に電源をOFFにしてから行う。
9	自社工場内で	破砕作業の為、油圧ショベルを運転している時	工場入口を背にして枝の破砕作業をしていたところ、枝を挟もうと旋回させたら荷下ろしの為にバックしてきたトラックとショベルのアームが接触しそうになった。(他業者の搬入車両のバックブザーが故障していて相手の進入に気付かなかった。)	旋回時の後方確認及び旋回方面確認を怠らない。搬入車両に対してもバックブザーの故障(整備不良)を指摘し、修理するよう促し接触事故の低減を図る。
10	現場で	高架水槽の清掃中	上ろうとしたら、雨が降っていた為に手が滑り、落下しそうになった。	日頃から、手元・足元・安全ベルトを着用しているが、雨天時は特に手元・足元を一步(一段)毎確認して行動する。
11	住宅地を走行中 (保土ヶ谷区)	剪定枝を収集に向かう途中	現場が見つからないので、車両を止め地図で確認したところ現場が逆方向だった為、後方の道までバックで向かおうと思い、バック誘導をしようと車両の後方へ行ったら、車に興味があったのか子供達が後ろに居たので驚いた。	助手がいる場合は、必ず誘導する。一人乗車の場合は、車を降りて後方の確認をしてからバックする。死角には最新の注意を心掛ける。
12	ダンピングヤード内で	トラックで帰社途中	作業員が、作業半径内に近付いてきた為にハットした。	作業員は、作業半径内に入らない。作業半径内に入らなければならない場合には、必ず重機オペレーターに無線等で連絡を取る。(重機が停止して、オペレーターの合図を確認したら作業に移る。)